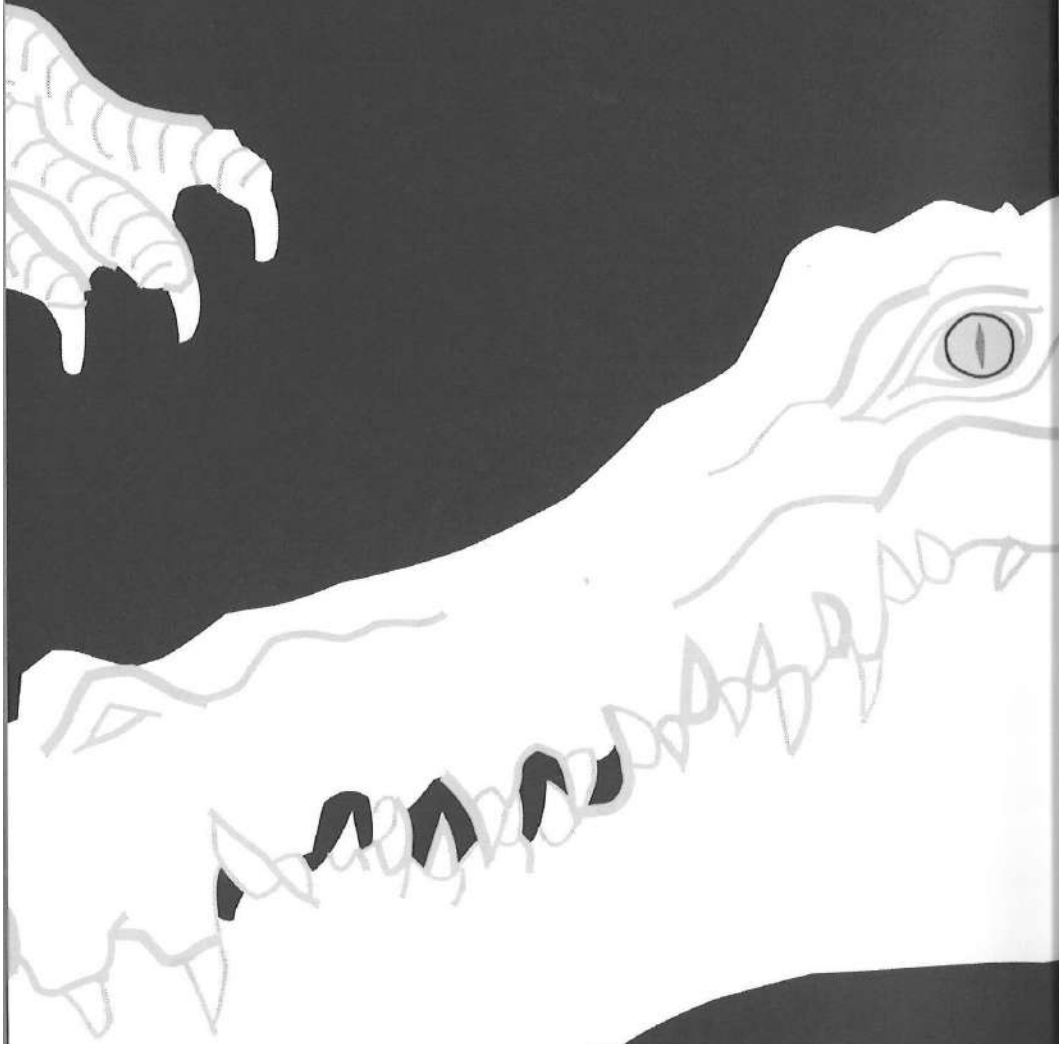


群猫 ぐんびょう

筒井康隆 つついやすたか



大都会。

陽光に、白い壁面とブルーペンのガラスを煌めかせて林立する摩天楼。その窓を、ななめに覗いて飛びかうヘリコプター。ピンクの朝と乳色の昼、やがて琥珀の夜。

地上一階。——歩道に群れた人びとを招く明るいショーウィンドウと挽きたてのコーヒーの香り。電話とビールの昼。ネオンとカクテルの夜。車、車、車。排気ガスと香水が混りあつた奇妙な臭気。集まってきてはその野心の大きさを互いに確かめあおうとする世界中の人びと。警笛の中の黒い女とモダンジャズの中の白い男。

地下一階。——熱気。ときおり轟音の混る喧騒。郊外の空気をわずかに運んできた電車がひと息ついてうずくまるターミナル・ステーション。切符売場の混乱。息せき切って走る人と階段を上っていくなまあたたかい風。ホットドッグの匂いと新聞売り

のあわただしい指さきの動き。「お釣りがありません！」発車のベル。

地下二階。——ベンチの足もとのバナナの皮。地下鉄のドアの開閉。新聞紙の輪舞と浮浪者の黒いあごひげ。落花生の匂いと娼婦たちの肌の匂い。花の死体。落ちていた空っぽの定期入れ。両端を赤くまたたかせた後に、やがて消える蛍光灯。換気装置の唸り。

地下三階。——赤い眼を光らせて排水孔を行くどぶ鼠。腐敗した果実と野菜の臭気。地上から細い穴を伝って落ちてきた書類。破られた納品伝票と丸められた資材明細書。塵芥処理場の搬出口を出てスロープを行くトラック。ホテルの従業員たちの冷たく湿った小さなベッド。

地下四階。——ビルの配電盤。常夜灯に光る無数の計器。その冷たいガラスの面の水滴。デパートのボイラー室。ダクトののたくり。冷気と鉄錆びの匂い。モーターのかすかな唸り。天井からしたたり落ちる水がコンクリートの床にたてる音。

地下五階。——下水道。丸い排水孔。黒い孔口の空虚さ。マンホールから落ちてき

目次

群猫 ぐんびょう

筒井康隆 つづい やすたか 005

仕事ください

眉村卓 まゆむら たく 027

弱点

星新一 ほししんいち 053

マトンゴ

福島正実 ふくしほ まさみ 069

黴 かび

小松左京 こまつ さやま 135